

令和 7 年度 上半期 指定管理者管理運営状況シート

1. 施設の概要

施設名	岐阜市福祉健康センター（老人福祉センター・会議室）	所管課	高齢福祉課
所在地	岐阜市都通2丁目2番地		
指定管理者名	社会福祉法人 岐阜市社会福祉事業団		
指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日		
選定方法	公募		
料金制	使用料		
指定管理委託料(年額)	20,513,000円/年		
施設の設置目的	高齢者に対して各種の相談に応ずるとともに、高齢者の健康の増進、教養の向上及びレクリエーションのための便宜の供与を目的とする。		
施設概要	◇構造:鉄筋コンクリート造5階建てのうち4階及び5階の一部 ◇敷地面積:2,315.33㎡ ◇延べ床面積:1,505.57㎡ ◇開館:昭和56年10月 ◇施設内容:生活相談室、教養娯楽室、図書室、技能習得指導室、機能回復訓練室、大会議室（集会室）、小会議室（会議室1）、収納庫、事務室等		

2. 利用状況

		R7 上半期	R6 下半期	R6 上半期	R5 下半期	R5 上半期
利用者数(単位:人)		12,566	13,228	12,752	12,646	11,081
各室利用人数 (人)	みやこ老人センター	7,075	6,850	7,085	6,500	6,061
	附属施設（会議室）	5,491	6,378	5,667	6,146	5,020

3. 業務の履行確認

区分	確認事項	履行状況
利用者サービス	①開館日・開館時間の遵守 ②適切な人員配置 ③広報の方策 ④苦情への対応	①岐阜市福祉健康センター条例施行規則第2条・別表のとおり履行 ②所長1名・常勤1名・非常勤1名・看護師1名(2日/月)を配置 ③広報ぎふ、事業団HP、施設内掲示板等の活用、PRチラシの配布など ④御意見箱を常設している。苦情に対しては「岐阜市社会福祉事業団苦情解決に関する事業実施要綱」に基づき、所長を苦情解決責任者とし第三者委員と協力して迅速に対応する仕組みを整えている。
自主事業・提案事業	—	—
施設管理	①夜間警備業務 ②清掃業務 ③防災機器保守点検 ④冷温水保守点検 ⑤電話設備保守点検 ⑥昇降機保守点検 ⑦害虫駆除業務	①夜間警備業務(毎日21時巡回) ②清掃業務 清掃業務・日常清掃(毎日:トイレ・フロア清掃) 定期清掃(年2回:4月・10月ワックス掛け) ガラス清掃(年2回:6月実施) 受水槽・高架水槽(年1回:上半期末実施) ③防災機器保守点検(年2回:9/13・14実施) ④冷温水保守点検(年4回:5/16, 8/9実施) ⑤電話設備保守点検(毎月2回実施) ⑥昇降機保守点検(3ヶ月に1回:6/4, 9/6実施) ⑦害虫駆除業務(年2回:6/10実施)
施設修繕	下記の観点からの修繕実施状況 ・迅速な修繕の実施 ・指定管理者のノウハウを生かした修繕・整備	岐阜市による修繕 なし 指定管理料による修繕 なし
危機管理・法令遵守	①個人情報の保護 ②非常時の対応策 ③関係法令の遵守	①「岐阜市社会福祉事業団個人情報保護規程」の遵守 ②「危機管理マニュアル」に沿った対応及びそれに基づく「救急車要請時の対応手順」「緊急時チェックリスト」の共有 ・保健所及び福祉健康センターによる合同消防訓練(7月9日)の実施における地震時の対応、避難誘導経路の確認、初期消火訓練 ・講座受講者に関する緊急連絡先(本人以外)の把握 ③条例・規則等の遵守

4. 利用者評価

利用者アンケートの実施状況	○令和7年6月9日から令和7年7月25日に、講座及びサークルの利用者（講座受講者及びサークル会員）を対象に利用者アンケートを実施 ○アンケートの質問項目には、性別、年齢等の基礎情報のほか利用者の満足度（講座内容、職員の対応、施設・備品）、講座を知ったきっかけ、講座選択の理由等を設定（調査票配布数812枚、回収数765枚、回収率94.2%）
利用者アンケートの実施結果	○回答者数 765人（講座受講者：550人 サークル会員：215人） ○性別 男性：167人、女性：598人、無回答：0人（男女比 男性21.8%：女性78.2%） ○年齢 60代：16.0%、70代：62.7%、80代：20.3%、90代：1.0% 《活動の中心は70代》 ○交通手段 自家用車：44.8%、自転車：29.3%、徒歩：14.5%、バス等：6.7%、その他：4.7% ○満足度 ・講座内容（対象・講座受講者） 満足：76.3%、やや満足：22.1%、やや不満：1.3%、不満：0.3% ・職員の対応（対象・講座受講者及びサークル会員） 満足：86.9%、やや満足：12.6%、やや不満：0.4%、不満：0.1% ・施設・備品（対象・講座受講者及びサークル会員） 満足：55.0%、やや満足：38.2%、やや不満：6.4%、不満：0.4%
利用者からの要望・苦情と対処・改善	○利用者からの苦情の申し出はなかった。 ○要望等指摘事項については、利用者アンケートの結果と合わせて利用者に公開している。 ○アンケート記載の意見については、講座内容や講師にかかるものは、講師に伝えて共有した。また、職員にかかるものについては、内容を職員間で共有した。施設・備品にかかるもののうち、可能なものは速やかに対応し、それ以外のものは以下のように対応した。 ・駐輪場の拡充及び駐車場の確保については、市保健所との共用施設であり現状では難しいことを伝え、公共交通機関の利用など協力をお願いした。 ・老人センターという名称を活力のあるものに変えてほしいという意見については、利用者アンケートを行い市に報告済み。

5. 指定管理者の選定基準に基づく評価

区分	選定基準	評価項目	具体的な業務要求水準	評価		
				指定管理者	所管課	評価委員会
公平性 透明性	住民の平等利用が確保されること	平等利用を確保するための体制、モニタリングなど	・「広報ぎふ」の他、ホームページ、施設内の掲示板を活用。 ・講座受講生は定員を超えた場合、第三者立会いのもとで抽選し、抽選にもれた方にはサークルを紹介する。 ・「御意見箱」を設置し、利用者の声を把握。	A	A	A
		情報公開、広報の方策	・指定管理者が定めた「情報公開規程」に基づき対応。 ・「広報ぎふ」、ホームページ等多様な手段で情報提供。	A	A	A
		区分評価				A
効果性	事業計画書の内容が、対象施設の効用(設置目的)を最大限発揮するものであること	利用者ニーズ、苦情などの把握方法及び対応方策など	・「御意見箱」を常設するとともに、日々の業務を通じたニーズ把握。 ・指定管理者が定めた「苦情解決に関する事業実施要綱」に基づき対応。	A	A	A
		利用者に対するサービス向上の方策(窓口対応、プロモーション、設備の整備など)	・研修会等により、接客技術の向上を図る。 ・施設の点検など、快適な環境に努める。	A	A	A
		利用促進、利用者増の方策	・「広報ぎふ」、ホームページ、施設内の掲示板等、多様な手段で広報。 ・講座・サークル活動の充実を図る。	A	A	A
		サービスの質を確保するための体制、モニタリングなど	・定期的に利用者アンケート調査を実施。	A	A	A
		施設の効用(設置目的)を最大限発揮できるスタッフの配置	・経験のある職員を配置し、スタッフの機動的な対応を図る。	A	A	A
		区分評価				A

区 分	選定基準	評 価 項 目	具体的な業務要求水準	評 価		
				指定 管理者	所管課	評価 委員会
効率性	事業計画書の内容が、管理経費の縮減が図られるものであること	収支計画の妥当性	・収支計画に沿った運営。	A	A	A
		管理経費縮減の具体的方策	・事業団が運営管理している他施設との一括発注及び指定管理期間を超えない複数年契約による経費削減。 ・利用者サービスを低下させない範囲内での節水・節電等による光熱水費等の縮減。	A	A	A
		スタッフ配置の妥当性（無理はないか）	・サービスを低下させないように、効率的に職員を配置。	A	A	A
		区分評価				A
安定性 安全性	事業計画書に沿った管理を安定して行う物的能力、人的能力を有していること	経営基盤の安定性	・民事再生法や破産法に基づく再生／破産手続き開始の申立てをしていない。 ・市税等の滞納がない。	A	A	A
		組織及びスタッフ（採用予定者も含む）の経歴、保有する資格、ノウハウ、専門知識等	・過去に高齢者福祉等の仕事に携わった経験のある人材を配置。	A	A	A
		スタッフ（採用予定者も含む）の人材育成の方策	・研修等により人材の育成を図る。	A	A	A
		リスクへの対応方策（防止策、非常時の対応マニュアルなど）	・指定管理者が作成した「危機管理マニュアル」、「地震防災マニュアル」等に基づき対応。	A	A	A
		区分評価				A
貢献性	事業計画書の内容が、岐阜市あるいは施設がある特定の地域（以下「地元」という。）の振興、活性化などに貢献できるものであること	地元の法人その他の団体の育成（一部業務の再委託先）	・地元の法人その他の団体に業務の一部を委託。	A	A	A
		地元での社会活動等への参加	・施設周辺の日常清掃の実施など地域環境美化へ積極的に取り組む。	A	A	A
		地元団体との連携、地元住民等との交流（世代間交流など）	・地元自治会、地域包括支援センター、保健センター・ふれあい保健センター等との連携を図る。 ・地元住民との交流を図り、地域福祉の向上に努める。	A	A	A
		区分評価				A

6. 指定管理者の取組みに対する自己評価(良否、課題と解決策など)

<p>今期の取組み に対する評価</p>	<p>【努力した点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の拡大を図るため、新たに上半期講座で「やさしい折り紙と小物作り」「鍵針で作る身近な小物」「はじめての尺八」「ひざこし元気関節トレーニング」を開講した。特に「やさしい折り紙と小物作り」と「ひざこし元気関節トレーニング」は定員を大きく上回る申し込みがあったことから、下半期に再度定員を増やして開講することとした。また、一日講座(お試し講座)として開催した「わた絵」も定員を大きく上回る申し込みがあったことから定員を増やして開講した。 ・昨年度から再開した利用者の作品展及び発表会は、利用者の意欲向上につながるとともに、その活動内容を情報発信することで、利用者(講座受講者及びサークル会員)の増加拡大に貢献することから、年間計画を作成のうえ、利用者の理解と協力を得て順次実施している。 ・利用者が、安全に安心して施設を利用できるよう、施設の定期点検とは別に、講座やサークル活動が終了した時点で各室の見回りをを行い、落とし物や備品の不具合等の確認を行うほか、感染症防止対策として部屋の換気を実施している。 ・特に気温が高かった夏季においては、熱中症予防のため室温調整に留意し、サーキュレーターを使用するなど、安全に利用できる環境づくりに努めた。 <p>【反省点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特記すべき事故・トラブル・苦情等はなし。 <p>【自己評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度、下半期の今後の取組み状況の中で、年30回ある講座を24回に減らし、利用者からの要望が多く、新たな体操系講座である「ひざこし元気関節トレーニング」を開講し、限られた指定管理料を最大限有効活用できた。今後さらなる新規講座を開講できるよう計画していく。 ・高齢者が参加しやすい、また、興味の持てる講座を検討し、昨年度下半期に「はじめての尺八」の一日講座を実施した結果、男性利用者に好評で継続を望む声もあったため、令和7年度から新たに半期講座として企画したところ、応募者が多く、定員10人のうち8人が男性利用者であった。 ・満足度調査の結果、講座内容、職員対応ともに満足という評価を多くいただいております、良好な施設運営ができていると捉えている。特に職員に対しては、日々の業務における接遇や施設管理等における細かな対応について理解をいただいているものとする。
<p>前回までの意見を 踏まえた取組み状況</p>	<p>【取組み状況(検討結果、取組中・取組済みのもの等)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老人センターの利用者総数は、昨年度下半期より13.6%、昨年度上半期より4.7%増加し、そのうち、男性の割合は昨年度下半期に比べ0.1%増加している。今後も利用者ニーズの把握に努め、男性利用者が参加したいと思われる講座の開講を検討していく。 ・利用者から新しい講座を望む声が寄せられており、上半期に4つの新規講座を開講したほか、下半期にも新規の一日講座を計画している。引き続き利用者の意見を聞きながら計画する。 ・受講者の募集については、年間計画に基づいて「広報ぎふ」の毎月1日号に翌月に開設する講座の案内を掲載し、利用者の増加につなげている。 ・高齢者の「生きがいつくり」「健康づくり」「社会参加」の3つのテーマを基本に、アンケートの結果を踏まえ、講座の開催、サークル活動の支援に努めていく。
<p>今後の取組み</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・上半期中に計画した下半期の新規講座を開講するとともに、利用者の受講状況及びニーズの把握に努める。 ・受講希望者が多いため、2回目以降のリピーター受講が困難な講座については、サークルの立上げを含め、利用者の活動を支援していく。 ・利用者からの要望が多い体操系、バッグ、小物作りの手芸等、講座の追加設置を企画するなど、限られた指定管理料を最大限有効活用できる講座開催のあり方を検討する。 ・男性高齢者が参加しやすい、また興味の持てる講座について企画検討する。現在、「はじめての尺八」と「岐阜の歴史」講座において70～80%が男性利用者であり、今後は定員を増やして開講を検討していく。 ・講座、サークル活動の成果を発表する場として、当施設内の掲示板、展示ケース等における作品展示や、一般の方を招いた発表会を開催し、それぞれの活動内容を情報発信する機会を設け、活動の支援に努める。 ・利用者に手指消毒、マスク着用を推奨するなど、コロナ、インフルエンザ等感染症の予防に留意し、安全・安心に利用できる施設運営に努める。

7. 所管課の意見

昨年度に短期講座等で好評だった「鍵針で作る身近な小物」、「ひざこし元気関節トレーニング」、「やさしい折り紙と小物作り」、「はじめての尺八」を新規講座として開始し、お試し講座の「わた絵」は人気があるため定員を増やすなど、利用者が講座をいつまでも楽しむことができるように、ニーズを捉えた運営ができています。

また、講座やサークルで作成した作品を施設内に展示したり、発表会を開催したりするなど、活動の成果を外部にアピールする場を設け、さらなる受講者の確保に努められている。

終活講座、歴史講座、英会話、吹き矢などが全体比に対して男性の割合が高いため、今後も男性にも人気のある講座の開講し、男性利用者の獲得に努められたい。

8. 指定管理者評価委員会の意見

所管課の意見のとおり適切に管理運営されている。